

行動計画フォローアップ会合で示された 主な取組と課題・要望

行動計画フォローアップ会合において、出席した中小企業・小規模事業者及び支援機関から示された主な取組や提起された主な課題、要望について、行動計画における4つの行動、「施策の効果的な実行に向けて」、行動計画にはない重要課題に分けて、それぞれ整理。

行動1 : 地域に眠るリソースを最大限に活用・結集・ブランド化する

行動2 : 中小企業の新陳代謝を活発にする

行動3 : 下請構造から脱却し、自ら積極的に成長分野へ参入する

行動4 : 海外に打って出る

効果的な実行 : 中小企業・小規模事業者施策の効果的な実行に向けて

小規模事業者 : 小規模事業者の振興に向けて

重要課題 : 震災対応、消費税転嫁対策

1. 主な取組

【中小企業・小規模事業者による主な取組事例①】

- おやき業界が連携して、ブランド化が進むことで知名度が高まり、販売が拡大した。ただ、市場拡大によって、機械化により大量生産を行う事業者が参入したことで、手作りで生産をしている事業者の販路が奪われ、二極化が進んだ。（長野市）
- 地域の農家で連携して、農業の6次産業化を実践している。みかん加工が売上の7割。加工すれば、年中売れるという強みがあるので、伸ばしていきたい。（和歌山市）
- 農家の作ったもの、企業が作ったものをデザインして、ブランド化する仕事をしている。地域には良いものが眠っているが、それを形にして発表することが苦手な人が多い。（甲府市）
- アナログ的な人的サービスが差別化の要素となりうる。人的な付加価値は目に見えないので、成果を感じ取るまでに時間がかかるかもしれないが、今日本で必要なこと。（川越市）
- 主原料の胡麻の99%が輸入に頼っているが、価格変動が大きい。地元農家やNPOと組んで、胡麻作りに取り組んでいる。（佐賀市）
- 中央から地方に人を呼びたい。テナントショップ等を中央に出し、営業しにいきたいと考えている。（新潟市）

【中小企業・小規模事業者による主な取組事例②】

- 試作開発の補助金を頂戴し、機械の開発をすると共に、人材育成にも取り組んだ。これにより、雇用も生まれ、開発・人材育成・スキルアップ等の競争が生まれ、チャンスが来たと非常に期待している。(那覇市)
- 資格があっても育児や介護などがあり、企業に勤めるには条件が合わず、働けない女性たちがワークライフバランスを取りながら、資格を活かして活躍できる仕事を作った。(八戸市)
- 育児や介護は依然女性の大きな負担。当社では女性パートも有給休暇の全日消化、勤務時間も柔軟に対応。今年出産したパートが雇用保険から育児休暇手当をもらい、休暇中。この手当の存在を知らない会社・女性が多いのが残念。(豊橋市)
- 配偶者控除があることから103万円を超えないように働こうとする方が多く、優秀な女性が社会に出ていくことが難しくなっていると感じる。(日立市)
- 介護の仕事は精神的・肉体的に非常に辛いものである。雇用問題と簡単にいうが、雇用の環境を整えることに今後力を入れていきたい。(由利本荘市)
- 地域の空き家を探し、インターネットでの情報提供及び地元不動産業者と連携した物件紹介で、4年間で30件程度の創業に繋がった。(長野市)
- 商店街は疲弊しているが、個店が元気になり、雇用を拡大することが、商店街活性化に繋がっていると思っている。(岡山市)

【支援機関による主な取組事例①】

- 地域のリソースに気づいていない事業者もあり、その地域では当たり前となっていることでも、世に広めて地域活性化のビジネスチャンスに繋がっていききたい。（長野市）
- 蔵王にある資源を有効に生かしたいと思っており、町で使える商品券が利用できる店を増やしている。農水省から助成金を活用して資源循環型の“蔵王爽清牛”というブランド牛を進めている。（白石市）
- 企業間の連携も大事だが、支援機関の連携も大事。銀座の百貨店で静岡の商店街と合同で物産展をした。なかなか横の繋がりができていないので、そこを強化したい。（甲府市）
- 支援機関も多くの国の施策について、良く知らない現状である。情報収集し、勉強会に参加するなど、お客様に提案できるよう努めている。（那覇市）
- 正しい会計知識が中小企業の武器になるよう、中小会計要領の啓蒙や、情報提供等を進めている。（鳥取市）

【支援機関による主な取組事例②】

- 地域資源について、大学と地元の顧客との連携を促している。連携の中で、銀行は直接の利害関係に入らないので、上手くコーディネートできるのではないかと取り組んでいる。（甲府市）
- 銀行本来の業務とは別に、高齢化や人口減少、社会インフラの老朽化などの社会問題に対応した支援を行っている。（日立市）
- 人材確保について、地元の高校や大学と連携して、学内での企業説明会等を実施している。（和歌山市）
- 理系の大学生に奨学金を出して福井県の企業に就職した場合には返済を免除している。（越前市）
- 地域の商店街と昨年から会議を行っており、空き店舗対策やまちづくり会社の設立・活用等について検討している。（那覇市）
- 個店の支援ではなく、商店街振興組合の主体的な立ち上がりを支援することが大事だと考え、テナントミックスを支援するパッケージを打ち出した。（岡山市）

2. 提起された主な課題・要望

- 消費者の視点からの商品・サービスの開発・販路開拓の促進
- 観光資源や農林水産品などの地域資源を活かしたツーリズムの推進
- 地域資源のブランドを推進する人材の発掘・派遣・育成

<課題・要望の具体例>

- ・ 地域ごとに特性が異なっており、それぞれの地域にあわせた施策が必要。(越前市)
- ・ 安心・安全な商品を作るには費用がかかる。国で何か支援があればありがたい。(松江市)
- ・ 地場産業が使える補助金がほとんどないと思う。(松江市)
- ・ 新しい取引先を探したいが情報が入ってこない。マッチング・情報提供をお願いしたい。(白石市)
- ・ 商店街に人が集まるためには、観光地との連携、イベントの開催、地域と密着した需要の掘り起こし、といった方法が考えられる。(長野市)
- ・ 女性が仕事を続ける上で、結婚、出産、子育て、介護が大きな課題となっている。(長野市)
- ・ ジェンダーの考え方をもった人の支援が必要。(越前市)
- ・ 社会保険料の負担が苦しい。これでは雇用も進まない。社会保障ができず、人材が集まらない企業も多い。
(室蘭市、八戸市)
- ・ 商店街では、個店の魅力も大事であるが、魅力がある個店が集積しなければ、商店街としての魅力が発揮できないため、マネジメントを支援して欲しい。コストダウンにつながる補助金が増えて欲しい。(由利本荘市)
- ・ 人がいなくなればお客さん減るので、行政には地域の定住化を促進して欲しい。(越前市)

1. 主な取組

【中小企業・小規模事業者による主な取組事例】

- 個人事業から始めたが、認知度を上げるのに苦しい時間が長く続いた。カタログ配布やサンプル提供などをして、ユーザー1人1人の需要も見えてきて、次のステージに向けて努力のしがいのあるところ。(旭川市)
- 商売というよりは、NPO活動に近い。女性で起業する人は、人材育成という一定の思いがあったり、趣味の延長として起業に至るケースが多い。(四日市市)
- 18年前に事業を引き継いだ時、待つ商売から外に出て行く商売に変えた。(越前市)
- 若い世代に承継する時期が来ている。若手社員にも業務の責任を持たせて、早い段階で1人前になってもらえるようにしている。(室蘭市)
- 従業員も、外に出ないと育たない。地域の団体に参加すればコミュニティも広がり、仕事の繋がりもでき、経験も増える。それが将来の担い手にも繋がる。(岡山市)
- 時代に合わせて事業体系を変えていくべきだと考えている。現在は10年前から6次産業を行っており、当事業に注力している。(鹿児島市)
- 同族か否か関係なく、どう引き継ぐかは重要。魅力ある会社になることが、従業員に長く勤めてもらえることに繋がる。従業員の休憩場の整備・改築をしたり、有給休暇も取りやすくしたりした。(松江市)

【支援機関による主な取組事例】

- 創業するのはスタート地点であって、その後が大事であり、事業を継続させるためには税務や実務面に加えスピリットの部分が重要だということを、創業前に何回かの講義に分けて伝えている。（鹿児島市）
- 女性や若者の起業を応援している。勉強会の開催や、先輩経営者から指導を受けられる仕組みも考えている。（岡山市）
- 新規開業について、担保・保証に頼れないため、金融機関は弱い部分。しかし、日本政策金融公庫や信用保証協会などと連携し、前向きに取り組み始めた。（和歌山市）
- 創業・次世代経営者への支援として、幅広い知識・ノウハウの習得サポート等を目的とした次世代経営者クラブを創設。（いわき市）
- 衰退ステージでは、致命傷を防ぐため、買収や早期の廃業を勧める場合もある。（長野市）
- 事業承継について後継者塾を開催している。目標として、経営者自身で計画を作れるようにすること。（今治市、甲府市）

2. 提起された主な課題・要望①

- 若者や女性による創業の促進
- 女性を中心に増加しているNPO法人による起業の支援
- 創業に伴う生活不安の解消
- 創業間もない企業に対する経営支援や信用力の向上

<課題・要望の具体例>

- ・創業塾を開催し、約1割が創業する成果があったが、平成23年に事業仕分けで廃止になった。創業塾の再開を切望している。(旭川市)
- ・創業支援が気になっている。これから創業したい人を支援しないといけない。勉強会とか育てる仕組みをして、女性の働きやすい環境を作らないといけない。(今治市)
- ・創業は意外とすんなりできたが、その後の継続や発展が大変難しく感じている。既存の事業を強化しつつ、新事業を発掘することが大事だと思うが、できていない。使える補助金もなく、困っている。創業後の、成長ステージに応じた支援や相談体制があると良い。(鳥取市)
- ・起業時や、雇用時の支援メニューは多々あるように思うが、起業後、存続できるようなサポートがほしい。(室蘭市)
- ・創業で補助金の採択通知を持っていても銀行で借りるのは難しい。(八戸市)
- ・起業する段階では個人で、担保も無く、金融機関も貸してくれない。(八戸市)
- ・起業家に寄り添うサポーターを増やしていくべき。(越前市)

2. 提起された主な課題・要望②

- 事業承継を契機とした既存事業の撤退や新事業展開
- 後継者不在企業の事業売却の円滑化
- 円滑な廃業や事業承継の促進のための支援体制の強化
- 商店街の空き店舗の活用やダウンサイジングの促進

<課題・要望の具体例>

- ・ 地方は働き口が少なく、若者が県外に出てしまっている。後継者を確保するため、魅力ある、活気あるまちづくりをする必要がある。(和歌山市)
- ・ 人材育成のひとつとして、経営者が入会しているような団体へ、承継候補者が入会することも良い。(岡山市)
- ・ 引き継ぐ時は借入金のためマイナスからのスタートとなっており、親子間での承継の問題になっている。事業承継のM&Aも期待。(越前市)
- ・ 廃業前にその企業情報が分かれば、引き継げる可能性もある。国等でそうした情報を事前に共有してくれればありがたい。(川越市)
- ・ 事業承継についてはスムーズにいく企業もあれば、社長が亡くなってから着手し、苦労する企業も多い。事業承継の問題は勉強不足・危機意識の欠如によるところが大きい。地域に密着したサポートを充実して欲しい。(由利本荘市)
- ・ 事業承継税制は「従業員の8割保持」という条件が厳しすぎる。その他にも足かせが多すぎるので、改善してほしい。(和歌山市)
- ・ 町全体のマネジメントが課題であり、商売人だけでなく、まちづくりの人材が必要。(大分市)
- ・ 空き店舗があってもシャッター通りに出店する人は少ない。周辺環境が出店意欲を削いでいる。大型店舗への集約型ではなく、地域分散型にすることで、中小規模の商店が生きてくるのではないか。(川越市)

1. 主な取組

【中小企業・小規模事業者による主な取組事例①】

- 下請け構造からの脱却について、国からの補助金を受け、各事業者の強みの技術を持ち合って、連携して品質向上とコスト削減に取り組んでいる。（長野市）
- 自社の強みは何かと考え、丹後の糸と機械金属の技術を合わせて、新素材の開発に取り組み、ものづくり補助金の採択を受けた。（京丹後市）
- 知見を広げるために様々な勉強会に参加するようになり、現在は納豆を使ったサプリメント・健康補助食品の開発研究、また納豆菌で作った農業資材の開発・販売といった新事業を展開している。（鹿児島市）
- 客のニーズが多様化し、ネット販売の普及や、車社会が進んだことで、地元以外からも客を呼び込めるようになった。一方で、ドラッグストアの進出、インターネットの台頭等で卸業は難しくなったため、登別の温泉などで対面販売等をスタートさせた。（室蘭市）
- 事業転換を図る際、大変苦労したが、ITを導入することで状況が変わった。客が欲しい商品をつくるかを第一に考え、今後も努力していきたい。（大分市）

1. 主な取組

【中小企業・小規模事業者による主な取組事例②】

- プラモデルのマーケットは縮小傾向。また、中国産が大部分。プラスチックの金型は日本産業の米であると言われながらも、今は殆ど壊滅した状態。そんな中で他の国に対抗していくため、技術開発等を行っている。マーケットの開拓においても、キャラクタービジネスへの参入、県庁とのコラボを行っている。ただのプラスチックの塊ではなく、立体情報物として売り出していきたい。（豊橋市）
- 組合の中で人的リソースを融通したり、情報共有したりして、1社では取れない仕事に対応したり、大手のベンターに対抗したりしている。（甲府市）
- 自動車修理業は競合が多く、車検について規制改革が進み、ユーザー車検ができるようになり、需要が減った。5年ほど前、ロードサービスに参入したところ、売上が伸びてきている。（越前市）

【支援機関による主な取組事例】

- 販売店の高齢化、大手量販店の増加により、卸としてより小売りに注力。商工会議所の協力を得て、ネット市場への出店を果たした。（高岡市）
- 商工会職員の提案が出発点となり、電気を通す布の開発に成功した。経済産業省重点経済政策の介護の分野で取り上げられ、「見守りシステム」として期待されている。（豊橋市）
- 補助金関係のところでは、繋ぎ役として頑張っている。ものづくり補助金で120件、創業補助金で30件ほど申請した。国の施策を繋ぐ役を頑張っていきたい。（大津市）
- 小さい企業は単独では難しいので、いくつかの企業でまとまって販路開拓をする場を設けるなどの取り組みをしている。（高知市）
- 中小企業が補助金や一括交付金を活用する際に、補助金の下りる前までの繋ぎ融資も県内金融機関として制度化し、支援している。（那覇市）

2. 提起された主な課題・要望①

- 中核企業を中心として、大学・研究機関、自治体、金融機関等が連携して、研究開発から事業化まで推進する体制の構築
- 顧客ニーズに対応した売れる製品の開発

<課題・要望の具体例>

- 現在の下請け構造からの脱却を目指しているが、物を作る事は出来ても、流通のノウハウはないので、支援してほしい。(豊橋市)
- 自分たちの強みを、どう生かしていけるかが分からない。持っている強みを開拓し、また成長分野への参入を繋いでくれるような、コーディネート支援がほしい。(京丹後市)
- 2年前から40社程度集まり、新しいものづくりに向けた研究会を開いている。今後、グループ単位で補助が受けられる仕組みがあれば、有り難い。(四日市市)
- 技術は完成しているが、いかに量産化し、雇用、納税に繋げていけるかが課題。事業化に焦点を当てた支援についても検討いただければ有り難い。(四日市市)
- いくら良いものを作っても売れない。マーケティングがよく分かっていなかった。マーケティングの専門家からのアドバイスが必要。(日立市)
- 業態がサービス業であっても、ものづくりに関わる事業については適用されるようにしてほしい。(白石市)
- ものづくり・商業・サービス補助金について、単に物を買うことを対象とするのではなく、システムを取り扱うなどサービス業でも使いやすい制度にして欲しい。(日立市)
- サポインの対象範囲を拡充して欲しい(和歌山市、高岡市)

2. 提起された主な課題・要望②

●優れた人材を確保するための発掘から定着までの一貫した支援

<課題・要望の具体例>

- 中小企業は優秀な新人を確保することが難しい。中小企業で人材育成するプランを作って欲しい(5, 6年後に別の中小企業に異動しても良い)。(川越市)
- 職人が育つまでに10年はかかる。都市圏へ勉強に行けるよう支援してほしい。(松江市)
- UIターンのように、田舎で仕事をしたいと考える若者が増えていると思う。マッチング支援があればいいと思う。(松江市)
- 新分野進出や産学連携等を進めたいが、目先何をすればいいか分からない企業がたくさんいる。初歩的なところからコーディネーターの育成を支援していただきたい。(豊橋市)
- ハローワークや人脈を使って採用しようとしているが、よい人に巡り会えない。マッチング支援があれば嬉しい。(鳥取市)

1. 主な取組

【中小企業・小規模事業者による主な取組事例】

- 中小零細が国際展開するには、採算の観点から個社ではハードルが高いため、複数の業者で連携し負担を軽減して行っていきたい。（長野市）
- 昨年愛知県の援助を受け、国際航空宇宙展へ出展。初めて外国と商談を行い、英語でもプレゼンを行った。取引成立には結びつかなかったが、課題が明確になった。（豊橋市）
- 展示会を行ったが、なかなか高級層との繋がりを得ることができない状況。そこでプロデューサーをむかえ、高級ホテルなどをターゲットにアプローチしている。（今治市）
- 海外の品評会への出展や海外での日本酒の啓蒙活動のほか、日本に招待し、酒蔵見学を通じて理解を深めてもらう取組も行っている。（由利本荘市）
- 農業の技術力を日本で磨き、海外での現地生産に挑戦していきたい。（四日市市）
- 近隣諸国では北海道は高い評価を受けている。国の力も借りて、輸出のできる小さな商社を設置して、北海道発アジア・世界行きを作っていきたい。（旭川市）
- 世の中の、物の売り方が変わってきている中で、今後はもっとネットを活用していくことが必要だと思っている。これまで店頭販売だけだったが、今後はネットも活用してアジア等にも拡大したいと考えている。（岡山市）

【支援機関による主な取組事例】

- 商工会議所のジャパンブランドに参加している。初めに商工会議所が費用を負担し、それが後で請求される仕組みなので、最初の費用の負担が軽くなってありがたい。商工会議所が資料を作成してくれるので事務の負担が少ないのも良い。(旭川市)
- 食品・食材を中心に海外に対してブランド化して売り込むために、3年前から商談会を実施し、毎年、実績を上げている。(那覇市)
- 事業者から商談会に出展するまでが分かりにくいとの指摘がある。また、商談会後のフォローアップの相談も多い。出口のサポート充実について、意見を受けている。(今治市)

2. 提起された主な課題・要望

●海外展開に当たっての現地での販路開拓等のパッケージ支援

<課題・要望の具体例>

- ・ 海外だとタイムリーな交渉、予期せぬ商談に語学不足、知識不足で対応できない。プロの商社マンがブースを巡回してくれると助かる。(高岡市)
- ・ 零細企業が海外に出るのが大変と実感。出た後の営業活動が続かない。一社だけでなく地域の異業種も出せる制度がほしい。(旭川市)
- ・ 海外へ出ると、一気に広がるため、日本と同じような感覚で行くと戸惑いを感じてしまう。中小企業向けの総合商社等があれば、ありがたい。(鹿児島市)
- ・ 海外展開に関し実際に苦労したことは、法務・労務・知財。現地の法律の適用を受けるところ、喫緊の課題と感じている。(鹿児島市)
- ・ CマークやULマークといったマークを取得しないと、海外では売れない。これを取得するまでに費用が数百万円かかる。この負担が減るような仕組みを作してほしい。(和歌山市)
- ・ 海外展開に当たっては、知的財産や感性は投資難しいので、そういったものを支援する施策があればありがたい。(越前市)
- ・ ロンドンの展示会へ出品し、非常に良い反応があった。2社からオファーがあったが、その後のフォローをどうしたらよいか分からない。フォローしてくれるような施策があれば良い。(四日市市)
- ・ 海外展開するにあたって、現地からの定期的な情報発信をお願いしたい。また、現地での商談や調査にあたって、通訳をつける際の助成金を制度化してほしい。(岡山市)
- ・ 海外に出た後、その商品が海外で売れるかどうか、その国の法律はどうなっているのか、進出前のマーケットリサーチを支援し、失敗例や成功例を共有するといった事前の支援が中小企業には一番必要。(川越市)
- ・ 量を求める場合は中国ASEAN、質を求めるなら欧米が視野に入ってくるが、欧米部分を対象にした施策が見つからない。(川越市)

【支援情報の広報の強化】

- 産学官金の情報が集約されているポータルサイトがあるとありがたい。業種や活動地域等を登録することで、より使いやすくなると思う。(遠野市)
- 国や県の助成事業が中小企業者には認知されていないことが多い。(高知市)
- なかなか国・県の施策などの情報が届きにくい。身近に活用した人がいたら、参考になるので、そうした環境があればいい。(大津市)
- 認定支援機関の存在があまり知られていない。認定支援機関のより良い周知方法を考えてほしい。(旭川市、四日市市)
- 補助金制度の情報があまり入ってこなかったし、どこに相談したらよいかも分からなかった。相談相手を紹介してくれるような仕組みがほしい。(岡山市)
- 市の他、様々な支援機関、地場産業振興センターなどあるが、それぞれの動きがばらばら。それぞれから、様々な施策の話をもらうが、一つにまとめてほしい。(新潟市)

【支援制度の使い勝手の向上①】

- 補助金申請の、書類を簡素化してほしい。手軽に使えるようになれば、新しいチャレンジにも意欲が湧く。(和歌山市)
- 補助金が、やる気のある小規模事業者に行き届くように、要件の緩和等してほしい。(鳥取市)
- 助成金の受付期間が短くて申請が間に合わないことも問題。(高知市、八戸市)
- 補助金の申請期間が短すぎる。せめて認定支援機関には、事前に情報をもらえれば事業者にお伝えして相談ができる。(白石市)
- 補助金の申請書の簡素化がされているが、申請書のみならず報告書も簡素化されるとありがたい。(甲府市)
- 商品開発などに時間を要するため、事業が1年で切れてしまっては、実績が出ない。長期的な支援をお願いしたい。(鳥取市)
- 県から補助金を受けることになってもお金をもらうのは事業が終わる1年後。この間の資金繰りが厳しい。(高知市)
- 補助金の不採用となった場合に足りなかった点のフィードバックがあると助かる。(室蘭市)

【支援制度の使い勝手の向上②】

- 補助金の簡素化はいいが、申請時に100%明細を出すようにとあるが、開発では途中で変更になることもある。柔軟に研究・開発できるようにしてほしい。(八戸市)
- 補助は精算払いなので、補助負担金額分と自己組合負担分の全額を用意できないと事業が展開できない。(八戸市)
- 創業にかかる助成金は設備投資に偏っていて、ソフトウェアに依った事業者にとっては人件費の割合が多く、使いにくい。助成金が人件費を充当できるようにしてもらえると使いやすい。(八戸市)
- 開発や設備にかかる補助を使わせてもらっているが、総務や経理的な面についても支援があれば、有り難い。(四日市市)
- 補助金の申請書がうまく書けない。中小企業・小規模事業者でもしっかり補助金を活用できるように、会計事務所などが積極的に支援してほしい。(新潟市)
- 同じような補助金が、国、県、市と、いろいろある。支援機関として、どれを紹介したらよいか悩んでしまう。(松江市)
- 省庁の垣根なく、連携してほしい。(松江市)
- 修繕費や補修費の捻出に苦労しているが、使える補助金がない。(松江市)
- 助成金の存在は認識しているが、帳簿等を管理しないとならないため、これまで利用していない。(日立市)

【経営支援体制の再構築】

- 新分野進出や産学連携等で地域の活性化を図っていきたいが、目先何をすればいいかわからない企業がたくさんいる。初歩的なところからコーディネーターの育成を支援していただきたい。（豊橋市）
- 基礎的なところを担う商工会では、昨今の高度化する経営課題への対応が難しくなっている。商工会としては、税理士、金融機関等の高度な知識を持っている支援機関へとつなぐ役割を果たしていきたい。（高岡市）
- 認定支援機関向けの研修について、地方では機会がまだ少ない。もっと研修の機会を増やしてほしい。（京丹後市）
- 市町村も創業支援に積極的。今後、市町村とも連携するにあたり、国の支援があればありがたい。（鳥取市）
- 土地柄もあってか、女性の支援者がいない。女性でなければ分からないこともあるので、女性の支援者・アドバイザーを育成してほしい。（今治市）
- 物事は口コミで広がる。口コミがプラットフォームを作ると思う。（岡山市）
- 様々な機関が様々なことを言っているが、結局誰に相談したらいいかわからない。（新潟市）
- 継続的な活動が必要なため、しっかりしたフォローアップをお願いしたい。（小松市） 21

- 小規模事業者から大企業と思えるものまで中小企業の幅が大きい。似た事業をしている大きな規模の中小企業に持っていかれてしまう。(八戸市)
- 我々のように家族で経営をしている事業者は、いろいろな補助金の申請書を出すのは大変。(越前市)
- ちいさな企業の魅力が、もっと伝わったらいと思う。国としてどう発信していくか、またそれをもとに我々がどう活躍していくか、考えていきたい。(岡山市)
- 小規模事業者は、新しいことを始めたくても難しい。(新潟市)
- 小規模事業者への手厚い支援をお願いしたい。(小松市)
- 中小零細企業においては、認知度が低いため、新卒採用が難しい。企業間で連携して、合同教育や新卒採用を行うことで、人材育成や雇用を創出していくことが重要。(日立市)

【震災特需】

- 震災後は、被災地域での需要や復興支援の想いによる取引開始等があり売上が一時的に伸びていたが、この特需が終わってみると、震災前の売上にまだ戻れていない。（白石市）
- 震災の特需で供給体制を強化したところもあり、今後、淘汰が起こらざるを得ない。（八戸市）

【グループ補助金】

- 地震により、工場は建物が半壊し今もそのままの状態で、機械も壊れた。グループ補助金を検討していたが、減価償却が済む前に将来立て替えることができないと言われたため利用を諦めた。（白石市）
- 早期の復旧ができたが、取引はまだ、震災前に取り戻せないところがある。これからグループの共同事業や情報交換を活用して復旧に努めて行きたい。（八戸市）
- 被災状況を全て調べると言われるが、申請段階では難しい。実際に（事業を）動かしてみないと分からないところがある。そういったところへのフォローがあるとありがたい。（八戸市）

- 取引先の大企業が手形を使うケースが増えており、中小企業の資金繰りを圧迫している。（川越市）
- 消費税増税に伴い、税抜価格表示も可能となったところ、「値上げした」と誤解されることがある。（新潟市）
- 下請法は、実態に合っていない事項がたくさんある。下請けいじめが横行しているので、消費税転嫁対策以前に、まずそれを取り締まってもらいたい。（新潟市）
- 消費税増税は転嫁対策により問題は発生していないが、ガスの値上がりや送料・運賃の値上がりがあったことが消費税よりも問題となっている。（由利本荘市）